

# 今こそ再び地域の力を！



住み慣れたまちで暮らす

地域のつながりが強く、地域全体が大きな家族のような時代。そんな時代には、地域で問題を見つけ、解決していく「地域の力」がありました。

最近、少子高齢化の進行や価値観、生活スタイルの多様化などにより、地域のつながりが薄れてきています。一方、防災や防犯、子育てなどの不安や課題が地域で増えていることも事実です。

今再び、「地域の力」が必要とされています。

今月の特集では、小城市内で、自分たちの地域をもっとよくしよう、盛り上げようと取り組んでいる方たちを紹介し、「地域の力」について、考えてみたいと思います。



# 「自分たちの地域は 自分たちで守らんと」



牛津町天満町区区長 本村 廣太さん

「住みよいまちにするためには、まず地域を知ること。そして情報を共有することが大事」と語るのは牛津町天満町の本村区長。生まれ育った地元への恩返しをしようと、その責務を受け、自主防災組織を立ち上げるなど精力的に取り組まれています。

## 見えてきた地域の課題

町内を自転車で回っている時に、クリークの水の流れが悪いことに気がきました。

泥やごみが溜まりやすく、少量の水しか流れないんです。大雨の時には排水力がなく、火事の時は頼りにならない。こういう問題個所が他にもないか自分たちの財産は自分たちで守るため、自主防災組織を結成しようと決意しました。

防災組織の必要性を訴え続け、住民の賛同をいただき、情報を共有化するきっかけとなる福祉マップ作りが始まり

ました。

社会福祉協議会の補助を活用し、武雄河川事務所や、市の防災担当も巻き込みました。住民とともに地区内を確認

して回ると新たな危険個所や、課題が見つかりました。更に、一人暮らしの高齢者などで支援を必要とする方の誘導をどうするかなど、知恵を出し合いました。

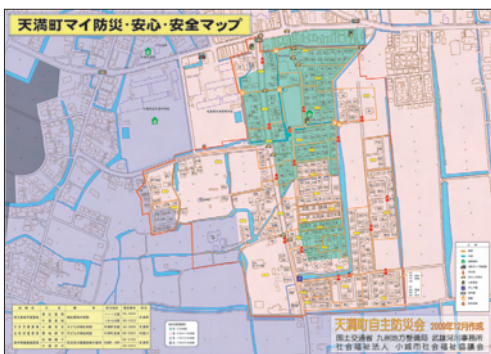
## 地域の絆の大切さを再認識

もともと地域活動に積極的な住民気質があったからこそ組織化できたし、日頃から区役員だけでなく、老人クラ

ブ、子どもクラブ、婦人会な

ど、様々な団体がその得意分野で地域活動をされており、いざというときには組織の枠を超えた連携ができるんです。

14年続く班対抗グラウンドゴルフ大会はほぼ全ての班が出場する人気の高いイベントで、異世代交流の場として大いに賑わいます。これは先輩たちが築いてきてくださった地域の財産なので、継承していきたいですね。住民同士が触れ合うきっかけを通し、お互いのことを知ることで支え合える地域をつくっていきたいと思います。



## 天満町 マイ防災・安心・安全マップ

危険個所などが記入され町内の様子が一目瞭然！役員は災害時要援護者などの情報を追加して支援活動に役立てている。



3日に1度は町内をくまなく回る本村区長。

# 「祭りは人をつなぐ 地域の宝」

芦刈のまちづくりを担う、ムツゴロウ王国芦刈まちづくりフォーラム実行委員長4年目の古賀さん。住みなれた地元、芦刈を元気にしようと様々なイベントを企画されています。そのうちの一つ、芦刈夏祭りにかける想いについてお話していただきました。



ムツゴロウ王国芦刈まちづくりフォーラム実行委員長 古賀 としひろ 稔浩さん

小さい頃は、盆踊り大会と呼んでいました。夜店が出るのが楽しみで参加していましたが、気づいたら祭りを作りあげるほうになってしまいましたね。

夏まつりに来てくれる子どもたちの笑顔が何よりも嬉しいです。仕事で、打ち合わせなど大変な時もありますが、小さい子が来て、喜び楽しんでる姿を見ると、達成感を感じます。自分が頑張ればこの笑顔を見ることができると

## 参加から参画へ



職業は大工さん

思うと、これからも頑張らなきゃと思いますね。

夏まつりが実施できるのも、保育園・幼稚園、小中学校、婦人会や区長会など地域の方々の協力があったること。地域みんなでつくりあげるからこそ、祭りは地域の宝といえるんです

自分は、芦刈まちづくりフォーラムのメンバーの中では若手にはいるんです。もっと若い人に関わってもらい、後継者を増やしたいですね。

## まちづくりの後継者

今後は、夏まつり以外にも、草刈りや花植えなどを実施していきたいし、お互いに情報交換をしていくなかで組織をしっかりとしたものにしていきたいと考えています。

また、芦刈地域はもちろん、市内の他のまちとも連携したまちづくりができればと考えています。せっかく小城市という一つの市になったんだから、一緒にできることがあれば協力して自分達が住む小城市をもっとよくしていきたいです。



地域みんなでつくりあげる“芦刈夏まつり”。今年も大勢の参加者で賑わった。



まちづくりについてざっくばらんに語り合う“夜なべ談議”を主催。





# 「地域の子どもは 地域で育てる」

三里小学校で始まった、“みさと・はっぴいぶっく”。地域と学校が一体となって企画したもので、子どもたちには、誕生日に自分で選んだ本が1冊贈られます。購入費用は地域が工面。子どもたちの健やかな成長を願う地域の想いが込められています。

三里の子どもの誕生日に本を贈る事業実行委員長 山崎 <sup>かずま</sup> 和馬さん

## きっかけは住民の危機感

現在、三里小学校の児童数は64人。少子高齢化は深刻で、住民の方々ももしかしたら、将来三里小がなくなるのではないかと危機感をもっていました。「このままではいけない。三里よ元気をだそう！地域活性化するためにも、地域に人々が集まってくるような三里にしよう。」との声があり、形になったのが、子どもたちに本を贈る「みさと・はっぴいぶっく」でした。



6月6日—第1回贈呈式— 地域の方を代表して山崎さんから、4、5月生まれの子11人に本が手渡された。

なり自ら動き出さなくてはという思いで、地域の方々の気持ちをくんで、若い方たちがすぐ考えてくれました。

## 人間力を高める

本を読むことは、感性・感受性を高め、人間を磨くことにつながります。教育はすぐに効果がでるものではありません。長い目で見て、将来三里を担う人材の育成のためになればと願っています。

三里で育った子どもはしっかりしていると言われるような、また、若い方達が三里で子育てをしたいと思うような地域にしていきたいですね。

## 地域の中の学校



三里小学校  
橋口和人校長

三里校区は、地域と学校の結びつきが深いですね。学校のことは全面的にバックアップしていただけます。地域全体で未来を担う子どもたちを育てるといふ風土が醸成しているんです。

みさと・はっぴいぶっくを通じて、学校と地域の結びつきがますます深まり、次のステップへと確実につながっています。小さな学校だからこそできることがあります。学校が地域の生活文化の拠点になる。学校という空間を使って人と人との交流ができる。そんな、人づくりの場を目指していきたいですね。



# 暮らしやすい地域づくりを目指して 小城市 安心生活創造事業

暮らしやすい魅力ある地域づくりを目指すため、現在、福祉課では「安心生活創造事業」に取り組んでいます。誰もが安心して小城市で暮らしていけるような地域づくりを目指すものです。

とりわけ、高齢者の中には体調への不安や孤独を抱えている方もいらっしゃいます。地域との共助で地域に誰もが安心して生活できるまちづくりを目指します。

## 市民の5人に1人が高齢者

少子高齢化が急速に進行する中で、地域では高齢者等の虐待や孤立死の問題、認知症高齢者を狙った消費者被害の問題など多種多様な生活課題が顕在化してきています。

小城市も例外ではなく、65歳以上の人口に占める比率（高齢化率）が22・2%、高齢者の一人暮らしや高齢者だけの世帯が2、700戸を超え若年層の減少とともに核家族化も進行し、家族の中だけでは問題の解決が難しくなってきました。

安心生活創造事業では、特に、家族の支援が期待できない一人暮らし高齢者等が家族や友人のいる住み慣れた地域で、生きがいのある自立した日常生活を営むことができるよう『見守り』と『買い物情報』などの生活の基盤となる支援を、地域の見守りネットワークの構築とあわせて整備します。

## 定期的な見守り

住民どうしの声かけ・見守り活動と同時に、介護保険や市の保健福祉サービスを利用していない方の不安解消や安否確認を目的として訪問員による定期訪問を行います。

## 生活実態調査を実施

65歳以上の一人暮らしの方や、高齢者のみの世帯を重点的に日常生活の困りごとや、健康に関する聞き取り調査を行っています。

調査結果を基に、地域と連携した見守りを行います。

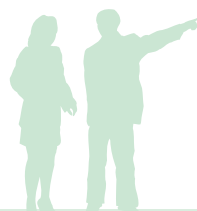
## 【問合せ】

安心生活創造事業について  
福祉課 地域福祉係  
(三日月庁舎)  
☎7318825



## 小城市が目指す地域の「見守り・支えあい運動」

あなたの出来ることから始めてみませんか？



### STEP01

#### ①見守り・声かけ運動

まずはあいさつなどを通して、お互いを知り、気付いた時に声をかけ合ってみましょう。もし、気になることがあれば関係機関や民生委員・児童委員や区長さんに連絡してください。

### STEP02

#### ②暮らしの支えあい活動

「ついでにどう？」「手伝いましょうか？」この一言が大きな支えになることがあります。例えば、お惣菜のおすそ分け、ついでの買い物、ゴミ出しの手伝い、電球の交換、家具の移動。ちょっとしたことでも大きな支えとなる場合があります。

### STEP03

#### ③防災・防犯活動

防災・防犯活動で要援護者に対する防災・防犯に関する取り組みも、地域の見守り支えあい活動です。





# あなたの力が地域を支えます

あなたのまちの「地域力」はいかがでしょうか？  
住んでいる地域のために、一歩を踏み出し、一人  
一人が何か一役を担うことでああなたの住む地域が  
もっと暮らしやすく、住みやすいまちになるはず  
です。

あなたの地域の素敵なところはどこですか？  
自慢できるところはどんなところですか？  
そして、課題は何ですか？

まず住んでいる地域に関心を持つことから始ま  
ります。今こそ再び、「地域の力を！」  
あなたの力が地域を支えます・・・

